

## 単元名 根拠を明確にして意見を書こう「意見文を書く」(第2学年) 全6時間計画

### 単元のねらい

意見文を書く活動を通して、根拠の適切さを考えて読み手を納得させるための書き方ができるようにする。

### 単元構想の意図

本単元では、読み手を意識して情報を収集・選択し、適切な根拠を挙げて意見文を書けるようにすることをねらいとしています。つかむ過程では、生徒の主体性を引き出すために、身近なテーマや読み手を設定し、興味・関心を高めます。追究する過程では、自分の意見を支える根拠に適した情報を集められるように、情報を観点に沿って分類させます。また、意見文は、他者と交流しチェックし合うことで、読み手をより意識して根拠を明確にできるようにします。まとめる過程では、今後生かせそうな技能や場面を想起させ、単元全体を振り返ることで、学びが次へつながっていくことを実感できるように構成しました。

過程

### 主な学習活動

#### 1. 単元の課題を把握する

○単元の課題をつかむ。

みんなが活躍できる学校行事や、みんなが過ごしやすい学校環境についての方策を校長先生に提案しよう。

- 二つのモデル文を読み比べ、説得力のある文に必要な観点を捉える。
- 学習の見通しをもつ。

観  
点  
例  
・比較  
・アンケート(調査)  
・引用  
・具体例  
・順序  
・気持  
ち

### 学習への興味・関心をもたせるための導入の工夫

実生活と結び付けて、日頃考えたり思ったりしていることを想起させ、それを実現させるために、身近で具体的な読み手を設定することで、目的意識・相手意識を明確にして、興味・関心を高める。

### モデル文の提示

意見文の完成形をイメージできるようにする。また、二つのモデル文を比較し、それぞれの説得力のある部分を探することで、意見文に必要な観点到自ら気付くようにする。

### 単元の流れの提示

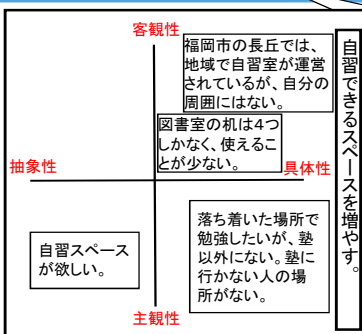
全ての単位時間がゴールに向けてのステップであることを自覚させ、単元全体で知識・技能を身に付けていくという学習の流れをつかめるようにする。

つかむ(1)

#### 2. 課題を追究する

○自分の意見を支える情報を収集し、情報カードに書き込む。

○集めた情報を分類し、自分の集めた情報の特徴をつかむ。



【情報を分類した例】

観 点	具体例	アン ケート	引 用	比 較	気 持 ち	順 序は 適切か	観 点	
							① 根 拠	② 根 拠
客 観 性	具体例	アン ケート	引 用	比 較	気 持 ち	順 序は 適切か	○	○
							○	○
主 観 性	具体例	アン ケート	引 用	比 較	気 持 ち	順 序は 適切か	○	○
							○	○

○情報カードの中から読み手に適すると考えるものを二つ選び、意見文を書く。

○書いた根拠の適切さについて互いにアドバイスし合う。

【観点チェックシート】→

○観点チェックシートを基に書き直し、清書する。

効果的な情報の活用  
情報は一つずつ付箋に書き、次時で整理しやすくする。また、それぞれの付箋に必ず観点を書き込ませることで、いろいろな観点を意識して情報を集められるようにする。情報カードを「客観性・主観性」「具体性・抽象性」の二軸で分類させることで、自分の集めた情報の特徴をつかんだり、情報と情報の関係を捉えたりする。また、幅広く情報を集められるようにするために、集めた情報の偏りに気付くようにする。

### 交流の工夫

意見文と観点チェックシートに加え、情報分類表も一緒に回し、代案も含めて交流することで、相手を説得できる根拠の選び方について考えられるようにする。複数人での交流を通して、書き手の意図が読み手に伝わっているかの確認だけでなく、読み手によって伝わり方が違うことも認識させることで、相手意識をより明確にする。

### 自身の変容をつかみやすくする工夫

清書の際、根拠部分のみを書き直させることで、つかむ段階で焦点化した「根拠を明確にすること」について再認識させるとともに、交流前後の自身の変容をつかみやすくする。

追究する(4)

#### 3. 単元を振り返る

- 単元で学んだことを確認する。
- 学んだことを交流し、一般化して理解する。
- 単元全体を振り返り、自分の言葉でまとめる。

全単元振り返りシート  
「根拠を明確にする」とは、相手も納得させる根拠を明確にするということだ。また、自分の意見を述べるときは、相手も納得させるように書くことが大切だ。今回の学習を通して、自分の意見を述べるときは、相手も納得させるように書くことが大切だ。今回の学習を通して、自分の意見を述べるときは、相手も納得させるように書くことが大切だ。

### 学んだことの一般化

学習してきたことを基に、「根拠を明確にすることとはどういうことか」を自身の変容を踏まえてまとめさせる。また、今後、どのような場面で意見を求められ、今回の学習をどのように生かしていけるかを交流しながら具体的に考えさせることで、学びの広がりを実感させる。

### 学びの自覚

全体で本時の学習をまとめた後、自分の言葉で自分なりに単元全体を振り返る時間を設定することで、自分の考えを形成できるようにする。

まとめる(1)

指導例：『意見文を書く』（第2学年 第1時）

1 学習課題を設定する。

○根拠を明確にして意見を伝える必要性を知り、単元への意欲をもつ。

**単元の課題** みんなが活躍できる学校行事や、みんなが過ごしやすい学校環境についての方策を校長先生に提案しよう。

○学習課題を設定した際に、各自でどのようなことを提案するかを考えることで、読み手を納得させるためにはどのような根拠が必要か、イメージをもつ。

2 めあてをつかむ。

**めあて** モデル文を比較し、根拠に必要な観点を考えよう。

○二つのモデル文を比較することを通して、読み手に説得力のある文章にするためには、適切な根拠を選んで書くことが必要であることを実感する。

お小遣いが足りません。橋本君は、三千円ももらっています。自分のほしいものやおやつなど、一カ月のうちに自由に使って、余ったお金を少しずつ貯めています。他にも、同じクラスの坂本さんは二〇〇〇円ももらっています。他の友達もだいたい僕より多くもらっています。なにより、私ほどにたくもつとお小遣いがほしいとずっと思ってきました。本当にずつとずつと、どにかくほしいのです。この気持ち、誰にも負けません。

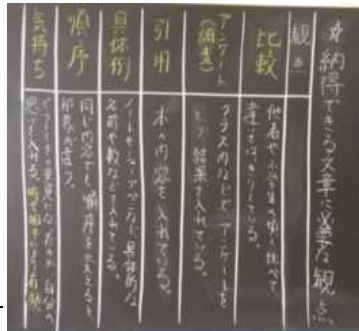
実際、クラスで文房具についてアンケート調査をしたところ、中学生になつて使う量が増えた文房具について、「ノート」と答えた生徒が九八％、ほかに「シャーペン九五％、ペン七八％、付箋四五％と多く、一方で、減った文房具については、回答で出てきた「鉛筆」のみでした。この結果からも、お小遣いの増額が妥当なのではないかと思えます。

また、『金銭感覚を身につけるには、早い時期から自分で管理することが大切』と、『経済学の専門家である橋本朋彦著の『お金の上手な使い方』という本にも書いてありました。

【モデル文A一部抜粋】

○モデル文を比較しながら納得できるか否かを判断する中で、読み手が変わるとその基準も変わることを実感し、納得できる根拠について広く捉える。

【モデル文B一部抜粋】



3 学習の見通しをもつ。

○適切な根拠を挙げるための情報収集の仕方について考えることを通して、学習課題の解決に向けて、どのような流れで学習を進めていくのかを共通理解する。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○学習課題を確認することを通して、課題解決に対する見通しを自分の言葉で表現する。

☆校長先生に読んでいただくので、観点を考えながら根拠をしっかり書いて納得してもらえようようにしたい。

☆自分の意見が採用されるように、しっかりと調べて情報を多く集めて、納得できる根拠を選んで書けるようにしたい。

指導のポイント

興味・関心をもたせる導入の工夫

○実生活と結び付けて、日頃考えたり思ったりしていることを想起させ、身近で具体的な読み手を設定することで、目的意識・相手意識を明確にして、興味・関心を高める。

学習内容を明確化するモデル文の提示

○モデル文を提示することで、意見文の完成形をイメージできるようにする。  
○二つのモデル文を比較し、それぞれの納得できる部分を探することで、意見文に必要な観点到自ら気付けるようにする。

単元の流れの提示

○全ての単位時間がゴールに向けてのステップであることを自覚させ、単元全体で知識・技能を身に付けていくという学習の流れをつかめるようにする。  
○掲示用以外に、振り返りシートの裏に印刷し、毎単位時間の導入で前時の振り返りとともに、単元の流れを確認できるようにする。

振り返りの工夫

○これからの授業で身に付けたい資質・能力について振り返らせたり、中心となる言語活動について意気込みを書かせたりすることで、次時への意欲が続くようにする。  
○学習のつながりが明確になるように全単位時間の振り返りを1枚のワークシートで行っていく。

指導例：『意見文を書く』（第2学年 第5時）

1 本時のめあてをつかむ。

○振り返りシートで前時を振り返り、学習計画表を基に本時の学習内容を把握する。

めあて できあがった意見文を読み合い、情報の選び方について話し合おう。

2 課題を追究するために個で考える。

○交流に入る前に、情報カードや根拠分類カードなどを再読する活動を通して、自分が選んで書いた根拠が観点に沿っているかどうかを確認する。

3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。

○友達の意見文は、根拠の所を中心に読む。その際、他の情報カードも一緒に見ることで、選んだ根拠が読み手を納得させるために最適かどうかを考える。

○互いの文章を読み合う際、根拠はどの観点を意識して書かれたものなのかをチェックし合うことで、自分の意図が読み手に伝わっているかを確認する。

観点	観点①	観点②
具体的(数字・名前)		
アンケート(調査)		
引用		
比較		
気持ち		
順序は適切か、○・×		
アドバイス 読み手はどの観点を意識して書かれたものなのかを チェックし合うことで、自分の意図が読み手に 伝わっているかを確認する。		

観点チェックシート

○互いの観点チェックシートを基に、意見交換を行い、グループで出た意見を全体で共有することで、「適切な根拠を書く」という課題に迫る。

○交流で得たアドバイスを基に、根拠の部分のみを消書する。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

まとめ 読み手を意識した情報(観点)の選び方について考え、読み手に意図が伝わる書き方について捉える。

○友達の文章を読んだりアドバイスをもらったりしたことによって「できるようになったこと」や「理解が深まったこと」について振り返る。  
☆お互いの意見文を読み合ったことで、お互いの足りないところに気付いて、カバーし合えた。互いにチェックし合うことも重要だと感じた。  
☆自分では比較をしているつもりだったが、そこが伝わらなかったの、「比べると」や「比較して」などはっきり言葉を入れた方がよいと分かった。

指導のポイント

活動の焦点化

○個で自分の意見文を再読し、どのような意図で観点を選んだのかを明確にさせることで、他者の作品を読む際の観点を明確にさせる。

読み手をより意識させる  
交流の工夫

○交流を通して、書き手の意図が読み手にきちんと伝わっているかを確認することで、相手意識をより明確にさせる。  
○交流する際は、意見文と観点チェックシートに加え、情報分類表も一緒に回し、より適した根拠はないかを考えさせることで、相手を説得できる根拠の選び方について考えられるようにする。

身に付けさせたい能力を明確にするために  
焦点化した学習

○根拠部分のみを書き直させることで、学習内容の焦点を絞り、自身の変容を自覚させる。  
○交流を基に、自ら書き直した根拠の部分と比較させることで、交流前後の変容をつかみやすくする。

学習内容を定着させるための  
まとめ・振り返りの工夫

○身に付けたい資質や能力などについてまとめをし、めあてに沿った明確な振り返りができるようにする。

指導例：『意見文を書く』（第2学年 第6時）

1 本時のめあてをつかむ。

- 単元全体を振り返ることが本時のめあてであることを知る。
- 単元を通して学習してきたことを振り返りシートで見返す。

めあて 単元の学習全体を通して、学んだことやできるようになったことを振り返ろう。

2 単元で学んだことを確認する。

- 学習課題の解決に向けた取組を振り返ることを通して、明確な根拠について学んできたことを確認する。
- 清書した意見文を読み返しなが、根拠を明確にすることについて自分の言葉でまとめる。
- S：根拠を明確にするというのは、自分のやりたいこと（提案）に沿った観点をを用いて、具体的にはっきり書くことだと思った。
- S：情報は、分類することでより読み手や目的に合った情報を選択できる。
- S：選んだ情報はただ並べるのではなく、伝わりやすい順序も意識する。
- S：書いた意見文を友達と読み合っ、推敲したり、観点が相手に伝わっているかを確認したりすると、より明確な根拠が書ける。

3 学んだことを一般化して理解する。

- 各自でまとめたことを班で読み合い、自分と同じ意見を見付けたり、自分が使えなかった手法について知ったりする。
- 自分の意見を求められる場面では、どのようなことを意識すれば意見が明確に伝わるかを話し合うことで、学んだことを一般化して考える。
- S：面接では、「気持ち」「比較」「引用」の観点が使える。
- S：部活動のミーティングだと、「具体例」「比較」「順序」が使える。
- S：今夜のおかずでは、「気持ち」「比較」「主観性」が使える。
- S：少年の主張では、「具体例」「引用」「調査・アンケート」が使えるそう。

4 単元全体の振り返りをする。

- 単元全体で学んだことと、今後それをどう生かしていきたいかを自分の言葉で具体的にまとめることで、学びを定着させるとともに学んだことを次に生かしていこうとする意識をもつ。
- ☆今までは、「自分がどう思うか」や「自分ならどの情報で納得できるか」を考えて書き方や情報を選んできたけれど、今回の授業を通して読み手を意識し、自分ではなく相手が納得できるような文を意識できるようになった。
- ☆読み手を意識することが説得力アップにつながると学んだので、今後、意見を求められる場面になった際には、そのときの状況に合わせて観点を変えて書いてみようと思う。
- ☆大人になると気持ちだけで押し切れることはなくなると思うので、相手の立場を理解してどの観점에서書くのかを意識したり、周りの人と読み合っ、改善策を考えたりしていけるようにしたい。

指導のポイント

単元を通して学んだことの共有

- 学習計画表を基に、単元全体を通して、どのような知識や技能を身に付けてきたかを振り返らせることで、学びを自覚させる。

学んだことを一般化するための工夫

- 「根拠を明確にするとはどういうことか」を交流する中で、今後、どのような場面で意見を求められ、今回の学習をどのように生かしていけるかを具体的に考えさせることで、学びの広がりを実感させる。
- 教材から離れ、身に付いた知識や技能が今後どのようなときに役立つかを考えさせることで、学びのつながりを意識させ、生徒にとって実感を持った生きた力になるようにする。

学びのつながりを実感させるための工夫

- 全体で本時の学習をまとめた後、自分の言葉で自分なりに単元全体を振り返る時間を設定することで、自分の考えを形成できるようにする。

# 国語科学習指導案

平成30年10月～11月 第2学年 指導者 橋本 朋彦

## I 単元名 根拠を明確にして意見を書こう「意見文を書く」

## II 学習指導要領上の位置付け

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係について理解すること。  
【知識及び技能 (2) 情報の扱いに関する事項ア】
- (2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。  
【思考力、判断力、表現力等 B 書くことウ】
- (3) 言葉がもつ価値を認識し、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。  
【主体的に学習に取り組む態度】

## III 目 標

- 意見文を書く活動を通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。
- (1) 意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係について理解すること。  
【知識及び技能 (2) 情報の扱いに関する事項ア】
- (2) 根拠の適切さを考えて情報を選び、説明等を加えて自分の考えが伝わるように工夫して書くこと。  
【思考力・判断力・表現力等 B 書くことウ】
- (3) 根拠の選び方によって相手への伝わり方が変わることに関心を持ち、自分の考えを伝える場で生かそうとすること。  
【学びに向かう力、人間性等】

## IV 指導計画 ※別紙参照

## V 本時の展開（1／6）

- ねらい 学習の見通しをもたせることで、意見文への関心を高め、課題解決への意欲が高まるようにする。
- 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<b>1 単元の課題を設定する。（10分）</b> ○意見を伝える必要性を知らせることで、単元への意欲をもたせる。			
単元の課題 みんなが活躍できる学校行事や、みんなが過ごしやすい学校環境について、校長先生に提案しよう。			
○学習課題を設定した際に、各自でどのようなことを提案するかを考えさせることで、読み手を納得させるためにはどのような根拠が必要か、イメージをもてるようにする。			
<b>2 めあてをつかむ。（18分）</b>			
めあて モデル文を比較し、読み手に与える印象の違いを考えよう。			
○二種類のモデル文を比較することを通して、読み手を納得させる文章にするためには、適切な根拠を選んで書くことが必要であるということを実感できるようにする。			
○生徒からの意見を基にして、適切な根拠に必要な観点をまとめる際、考えの理由も問うことで、納得できるできないの差が明確になるようにする。			
<b>3 学習の見通しをもつ。（10分）</b> ○情報収集の仕方について考えさせ、学習課題の解決に向けて、どのような流れで学習を進めていくのかを捉えさせる。			
学習課題を把握し、今後の学習への意欲をもっている。＜振り返りシート・発言（3）＞			
<b>4 本時のまとめ・振り返りをする。（12分）</b> ○学習課題を確認することを通して、課題解決に対する見通しを自分の言葉で表現させる。 ☆学習課題を解決するために、説得力のある意見文の書き方を考えていこう。 ☆根拠がないと、読み手として納得できないことが分かった。校長先生を納得させられるような情報を根拠として選びたい。			

## V 本時の展開（5／6）

1 ねらい 選んだ根拠の適切さについて互いにアドバイスし合う活動を通して、具体例の入れ方など根拠の適切な書き方を考えることができるようにする。

### 2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。（3分）</p> <p>○前時で書いた意見文を読み合い、根拠について考えることを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>めあて できあがった意見文を読み合い、情報の選び方について話し合おう。</p></div>			
<p>2 課題を追究するために個で考える。（5分）</p> <p>○交流に入る前に、情報カードや根拠分類カードなどを再読する活動を通して、自分が選んで書いた根拠が第1時でまとめた適切な根拠に必要な観点に沿っているかを確認させる。</p>			
<p>3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。（35分）</p> <p>○文章をグループで交換し合い、チェックシートを基にアドバイスし合う。</p> <p>○友達の意見文は、根拠のところを中心に読むことを伝える。その際、他の情報カードも一緒に見ることで、選んだ根拠が読み手を納得させるために最適かどうかを考えさせる。</p> <p>○互いの文章を読み合う際、根拠はどの観点を意識して書いたものなのかをチェックし合うことで、自分の意図が読み手に伝わっているかを確認できるようにする。また、疑問に思う点や意味が分からない点に線を引き、どのように直せばよいかアドバイスを書くことを通して、具体的な情報の選び方について実感させる。</p> <p>○グループで出た意見を全体で共有することで、「適切な根拠を書く」という課題に迫らせる。</p> <p>○交流で得たアドバイスを基に、根拠の部分のみを清書する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><p>意見文を読み合い、適切な根拠の選び方についてアドバイスしたり、話し合ったりしている。＜観察・ワークシート・振り返りシート（2）＞</p></div>			
<p>4 本時のまとめ・振り返りをする。（7分）</p> <p>○友達の文章を読んだり、アドバイスをもらったりしたことによって「できるようになったこと」や「理解が深まったこと」についてまとめさせる。</p> <p>☆意見文を読み合うことは、自分では気付かない書き方や考え方を知ることができ、自分の考えを見直すのに有効だな。</p> <p>☆客観的な数字が使われていて、誰にでも当てはまるような根拠が書けているので納得できる。</p>			

## V 本時の展開（6／6）

1 ねらい 単元全体を振り返る活動を通して、学習前後の変容について気づき、今後の学習へのつながりが実感として捉えられるようにする。

### 2 展開

学習活動（分） ○：留意点 点線囲：評価 ☆：振り返りの子供の意識

#### 1 本時のめあてをつかむ。（5分）

○単元全体を振り返ることが本時のめあてであることを伝える。

めあて 単元の学習全体を通して、学んだことやできるようになったことを振り返ろう。

#### 2 単元で学んだことを確認する。（5分）

○学習課題の解決に向けて取り組んできたことを振り返ることを通して、明確な根拠の書き方について学んできたことを確認する。

#### 3 学んだことを一般化して理解する。（25分）

○清書した意見文を読み返しながら、根拠を明確にすることについて自分の言葉でまとめさせることによって、学習した内容の定着を図る。

○各自でまとめたことを班で読み合い、自分と同じ意見を見付けたり、自分が使わなかった手法について知ったりする。

○どのようなことを意識すれば意見が明確に伝わるかを話し合わせることで、学んだことを一般化して考えられるようにする。

適切な根拠の選び方や根拠を入れるよさについて学んだことを、今後の活動に生かそうとしている。＜振り返りシート・発言（3）＞

#### 4 単元全体の振り返りをする。（15分）

○単元全体で学んだことと、今後それをどう生かしていきたいかを自分の言葉で具体的にまとめさせることで、学んだことを生かしていこうとする意識をもたせる。

☆身近な人には思いを率直に伝える文章にするのも大切だが、広く読み手を納得させるには、客観的なデータが必要であることが分かった。

☆身近な行事について意見を述べるときは、事例として実体験を入れると具体的に想像しやすく、説得力をもたせやすいことが分かった。



指導計画 中学校国語科 第2学年 単元名 根拠を明確にして意見を書こう「意見文を書く」(全6時間計画)

目標	<p>意見文を書く活動を通して、次の指導事項が身に付けられるようにする。</p> <p>(1) 意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係について理解すること。 【知識及び技能(2)情報の扱いに関する事項ア】</p> <p>(2) 根拠の適切さを考えて情報を選び、説明等を加えて自分の考えが伝わるように工夫して書くこと。 【思考力・判断力・表現力等 B書くことウ】</p> <p>(3) 根拠の選び方によって相手への伝わり方が変わることに関心し、自分の考えを伝える場で生かそうとすること。 【学びに向かう力、人間性等】</p>		
評価規準	<p>(1) 相手や目的に応じて、文章の展開に違いがあることを理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)】</p> <p>(2) 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書けている。 【B書くことウ】</p> <p>(3) 文章を書いて考えを広げようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】</p>		
過程	時間 ○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価項目 <方法(観点)>
つかむ	<p>1 ○学習の見通しをもたせることで、意見文への関心を高め、課題解決への意欲が高まるようにする。</p> <div data-bbox="305 916 915 1053" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんなが活躍できる学校行事や、みんなが過ごしやすい学校環境について、校長先生に提案しよう。</p> </div> <div data-bbox="305 1086 915 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>モデル文を比較し、根拠に必要な観点を考えよう。</p> </div>	<p>☆学習課題を解決するために、みんなで考えた観点に従って根拠の内容や順序を工夫した書き方を考えていこう。</p> <p>☆根拠がきちんと書かれていないと、納得しづらいな。校長先生を納得させられるような情報を根拠として選びたい。</p>	<p>◇学習課題を把握し、学習への意欲をもっている。 &lt;振り返りシート・発言(3)&gt;</p>
追究する	<p>1 ○自分の意見を支える情報を調べることを通して、適切な根拠を取捨選択する観点が意識できるようにする。</p> <div data-bbox="305 1339 915 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の意見を支える情報をできるだけ多く集めよう。</p> </div> <p>1 ○集めた情報を分類する活動を通して、集めた情報の種類や偏りなどに気付き、情報を補えるようにする。</p> <div data-bbox="305 1572 915 1668" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>集めた情報を分類し、足りない情報を付け足そう。</p> </div> <p>1 ○情報カードに書き込んだ情報の中から、分類を基にして、自分の意見を支える根拠を二つ選択し、読み手を意識して意見文が書けるようにする。</p> <div data-bbox="305 1819 915 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>根拠を二つ選び、意見文を完成させよう。</p> </div> <p>1 ○選んだ根拠の適切さについて互いにアドバイスし合う活動を通して、具体例の入れ方など根拠の適切な書き方を考えることができるようにする。</p> <div data-bbox="305 2052 915 2148" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>できあがった意見文を読み合い、情報の選び方について話し合おう。</p> </div>	<p>☆具体的な数値の入ったデータはあるかな。</p> <p>☆個人的な感情を入れないように気を付けて実体験をまとめよう。</p> <p>☆この情報は誰にでも当てはまり、数字もある情報だから使ってみよう。こっちは数字はあるけれど、個人にしか当てはまらない情報だから、根拠としては弱いな。</p> <p>☆選んだ二つの情報は、どちらを先に書くかによって読み手の印象が変わるので、順番も工夫するとよい。</p> <p>☆意見文を読み合うことは、自分では気付かない書き方や考え方を知ることができ、自分の考えを見直すのに有効だな。</p> <p>☆客観的な情報が使われていて、誰もが納得できる根拠が書けているので納得できる。</p>	<p>◇自分の意見を支える根拠としての情報を集めている。 &lt;情報カード・振り返りシート(1)&gt;</p> <p>◇情報カードを整理し、有効な情報かどうかを考えて選ぶことができる。 &lt;振り返りシート・情報分類表(1)(2)&gt;</p> <p>◇集めた情報を基に、自分の考えが伝わるように適切な具体例を入れて意見文が書ける。 &lt;ワークシート(2)&gt;</p> <p>◇意見文を読み合い、適切な根拠の選び方についてアドバイスしたり、話し合ったりしている。 &lt;観察・ワークシート・振り返りシート(2)&gt;</p>
まとめる	<p>1 ○単元全体を振り返る活動を通して、学習前後の変容について気付き、今後の学習へのつながりが実感として捉えられるようにする。</p> <div data-bbox="305 2368 915 2477" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>単元の学習全体を通して、学んだことやできるようになったことを振り返ろう。</p> </div>	<p>☆目上の人や多くの人が見るような文は、客観的なデータが有効であることが分かった。身近な人には、気持ちも大事な根拠になる。</p> <p>☆身近な行事について意見を述べるときは、実体験を入れた方が納得しやすいということが分かった。</p>	<p>◇適切な根拠の選び方や根拠を入れるよさについて学んだことを、今後の活動に生かそうとしている。 &lt;振り返りシート・発言(3)&gt;</p>